

平成29年12月28日(金)

老球の細道381号

バスケットボールはルールと共に進化する

会津バスケットボール協会 室井 富仁

Bリーグ今シーズンから3つのルール変更があった。①「トラベリングルール」②ファールゲーム時の「アンスポーツマンライクルール」③テクニカルファールとアンスポーツマンライクファールの合計2回で退場になる「ゲーム・ディスクォリフィケーション」。コーチにも適用。

特にトラベリングの解釈については「0ステップ」という観点が出てきて、従来アバウトであったボールミートキャッチ時のストップがすっきりと判断される。

「トラベリング」というルールは、バスケットボールがラグビー等を参考にしてできたスポーツであることからできた。ラグビーのようにボールを持ったまま自由に走れるようにするとタックルでそれを阻止するようになり、それによって怪我人が出てしまう。そのようなリスクをなくすために「ボールを持って動いてはいけない」というバスケットボールの特色中の特色のルールが考え出されたのである。このルールができることによって「ピボット」が誕生し、そこから「ドリブル」のスキルが誕生した。このようにルールによってスキルやプレイ、そしてゲームの様相も発展してきたのである。

吉井四郎氏によると「最もゲームの様相に変化をもたらした4つの規則」がある。

1・ゴールがなされた後のセンタージャンプからのゲーム再開の削除(1937年):バスケットボールができたばかりの頃は、シュートが入るたびにセンタージャンプでゲームが再開していた。センタージャンプに強い長身者を持つチームは常に有利であった不平等さを解消した。そしてゲームのスピードアップも図られるようになった。

2・10秒ルールの出現(1932年):10秒以内でバックコートからフロントコートにボールを運ばなければならない(現在は8秒)。ゴールの近くに固まって守るゾーンディフェンスの出現によって、それを攻略するのは至難の業だった。多くのチームは1本ゴールを決めると、次の攻撃はシュートをしないでバックコートでパスを回すだけとなった。それを是正するために10秒ルールができ、その後シュートまでの「30秒ルール(現在24秒)」が加わり、ゲームはさらにスピードアップした。

3・フリースローラインにおける3秒ルール(1935年):長身者が得点容易な地域に止まることを困難にして身長差の不平等を解消した。

4・バスケットボール・カウントワンスロー(1954年):シュートに対してファールをすると、入った場合にボーナススローが与えられる。これによって、ファールをしたほうが有利になるようなことをなくすようにした。

5・3ポイントシュート(1985年):身長の低い選手にアドバンテージを与えたが、現在は長身者も3Pシュートをこなす。

バスケットボールのルールの改訂のねらいは四つある。①技術の発展につれて、より詳細なルールを作る必要性に迫られる②危害の予防とよりクリーンなプレイを望むため③平等な等条件でゲームをプレイさせるため④ゲームのスピード化を図るため

今後ますますコーチはルールに精通し、審判は技術に精通しなければならないだろう。ルールも技術も日進月歩。両者とも現状維持のぬるま湯に浸っている余裕はない。